

S-5-7 ポリミキシン B 固定化ファイバー (PMX-DHP) を用いた敗血症性ショックに対する治療戦略は有用である

大阪府立千里救命救急センター¹⁾, 鹿児島大学医学部臨床検査医学²⁾

小林誠人¹⁾, 藤井千穂¹⁾, 丸山征郎²⁾

【目的】敗血症性ショックに対する PMX-DHP の臨床効果・有効性とその生体反応調節機序を検討した。
 【対象と方法】PMX-DHP を施行した敗血症性ショック 27 症例を対象に, 平均血圧 (MAP), カテコラミン量 (CV), 肺動脈カテーテル検査, P/F ratio, SOFA score, サイトカイン (IL-6, IL-8, IL-10, IL-1RA), 内因性 cannabinoids (ANA, 2-AG) の変化を PMX-DHP 施行前後で検討した。
 【結果】PMX-DHP 施行前後で CV の減量, MAP/CV の上昇, hyperdynamic state からの離脱など循環動態の急速な改善を認めた。P/F ratio で示される肺酸素化能は改善を認め, 肺内シャント率改善の関与が示唆された。また SOFA score の改善を認め多臓器障害からの離脱効果が示された。各サイトカインは低下しサイトカインバランス (IL-6/IL-10) の是正を認めた。2-AG, ANA+2-AG の低下および MAP/CV 変化率と 2-AG, ANA+2-AG 変化率に負の相関関係を認めた。
 【結語】PMX-DHP は敗血症性ショック患者の生体反応を速やかに改善し得る。その機序に内因性 cannabinoid と cytokine の関連が示唆された。感染源のコントロールとともに PMX-DHP は敗血症性ショックに対する有効な治療手段である。

S-5-8 サイトカインがもたらす組織修復を考慮した新たな血液浄化療法の試み

聖マリアンナ医科大学 救急医学 1), 臨床工学技師 2)

長屋昌樹 1), 清水徹 2), 大内崇弘 1), 星名聖剛 1), 平泰彦 1), 明石勝也 1)

【目的】従来、種々の病態において、炎症性サイトカインの血液浄化による除去が治療の最重要課題とされてきた。ところが IL-1 や IL-6 は組織再生に不可欠な growth factor の誘導をもたらすことが解明され組織再生に重要な役割がある事が示唆されている。我々は余剰分のサイトカインの除去が侵襲を改善し速やかな組織再生をもたらすと仮定、CHDF を modify した新たな 8 時間施行、16 時間休止を繰り返す間歇的 HDF、“Extended-HDF”を考案し有用性を検討した。
 【方法】外傷及び手術例 5 例に対し Extended-HDF を施行した。hemofilter は UT-700S、抗凝固剤は Nafamostat Mesilate、透析液はサブラッド B、補液はヴィーン F を使用。血液流量 100ml/min、補液流量 700ml/hr、濾液流量 1000ml/hr、透析液流量 300ml/hr の設定で施行した。IL-6、血中乳酸値、Hepatocyte growth factor (HGF) を指標とした。
 【結果】全例で IL-6、3 例で乳酸値の低下が確認された。HGF は Extended-HDF 休止期間に上昇した。
 【結論】創傷治癒、組織再生は夜間に見られ、夜間休止期に増殖因子を有効利用できる本方法はサーカディアンリズムにもとづいた合理的な方法で、我々の結果より IL-6 低下にも効果があり組織再生を考慮した有効な方法である。